



上智大学短期大学部

SOPHIA UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

多文化共生を担う人材育成と 外国籍市民への日本語支援

宮崎 幸江

上智大学短期大学部

日本語教育学会主催2018年度春季大会一般公開プログラム

日本語教員養成の新しい役割と可能性ー日本語指導が必要な子どもたち
を取りまく学習環境を手がかりにー

2018年5月26日(土)

発表の流れ

1. 外国にルーツを持つ子どもたちの教育環境

- 外国にルーツをもつ子どもの発達と課題
- 外国人児童生徒等教育を担う教員に求められる力

2. 上智大学短期大学部の外国籍市民支援

- 秦野市の多文化化と課題
- Men and Women for others, with others 上智の精神
- サービスラーニングとは
- コミュニティフレンド(地域日本語教室)とカレッジフレンド(学校派遣)

3. 学生の学び

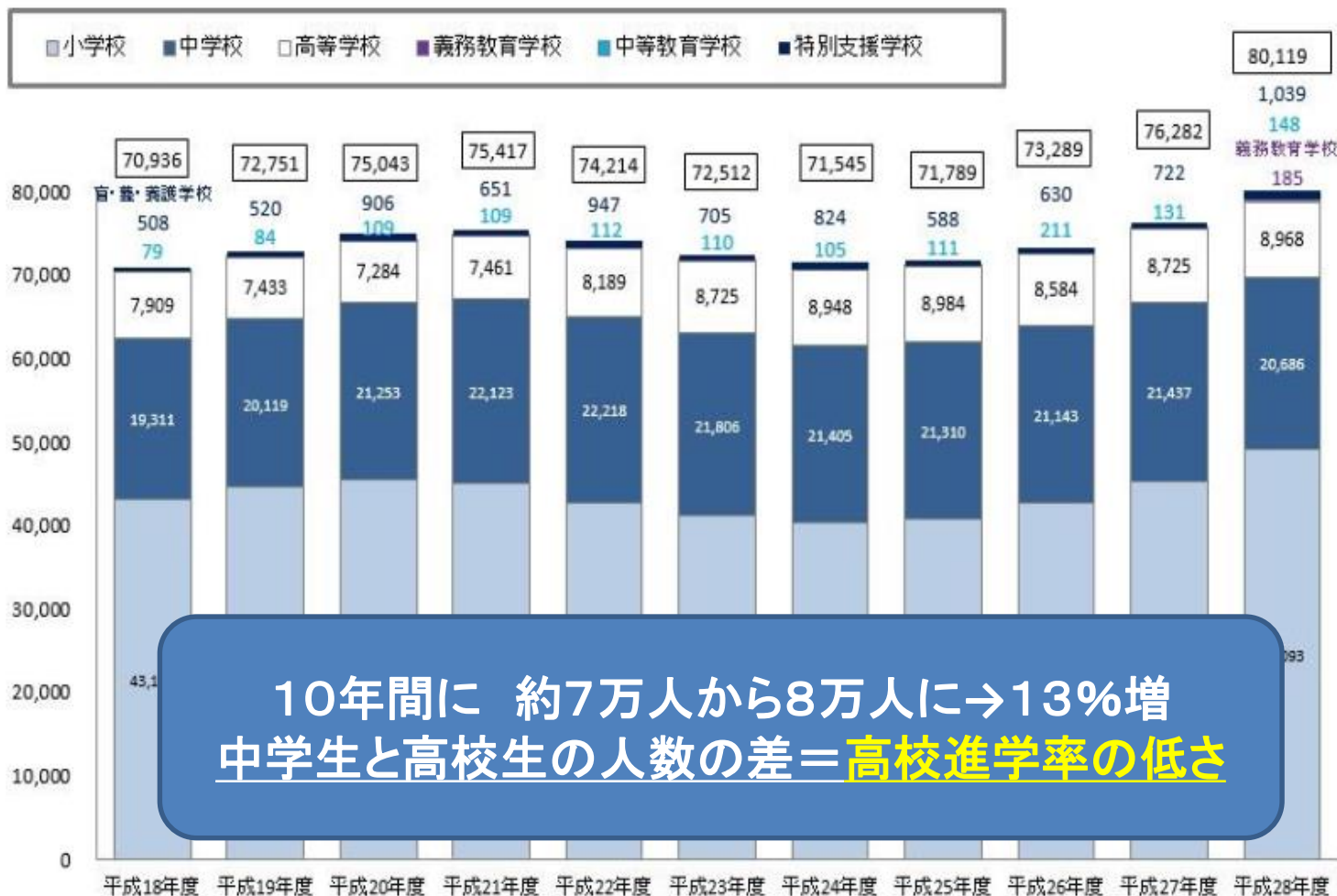
- エンパワメントされる学生達
- 振り返りとディプロマポリシー自己評価から

4. まとめ

- 多文化共生を担う人材育成は可能か

1. 外国籍児童生徒数学校種別推移

(参考) 公立学校に在籍している外国籍の児童生徒数 (出典: 文部科学省「学校基本調査」)



1.1 外国人児童生徒の言語の発達

● 家庭内言語と学校言語の異なる環境で成長

- － 多様な発達に影響を与える要因
 - ・ 年齢要因（年齢，入国時の年齢，滞在期間）
 - ・ 渡日前の教育や母語の力
 - ・ 本人の性格やアイデンティティ
 - ・ 保護者の考え方、家庭環境

● 生活言語と教科学習に必要な言語の習得

- － 生活言語 1～2年で習得可能
- － 学習言語 5年から7年要する
- － 現地生まれや幼少期に入国した子どもの場合、7年から10年を要する場合も（中島 2016）



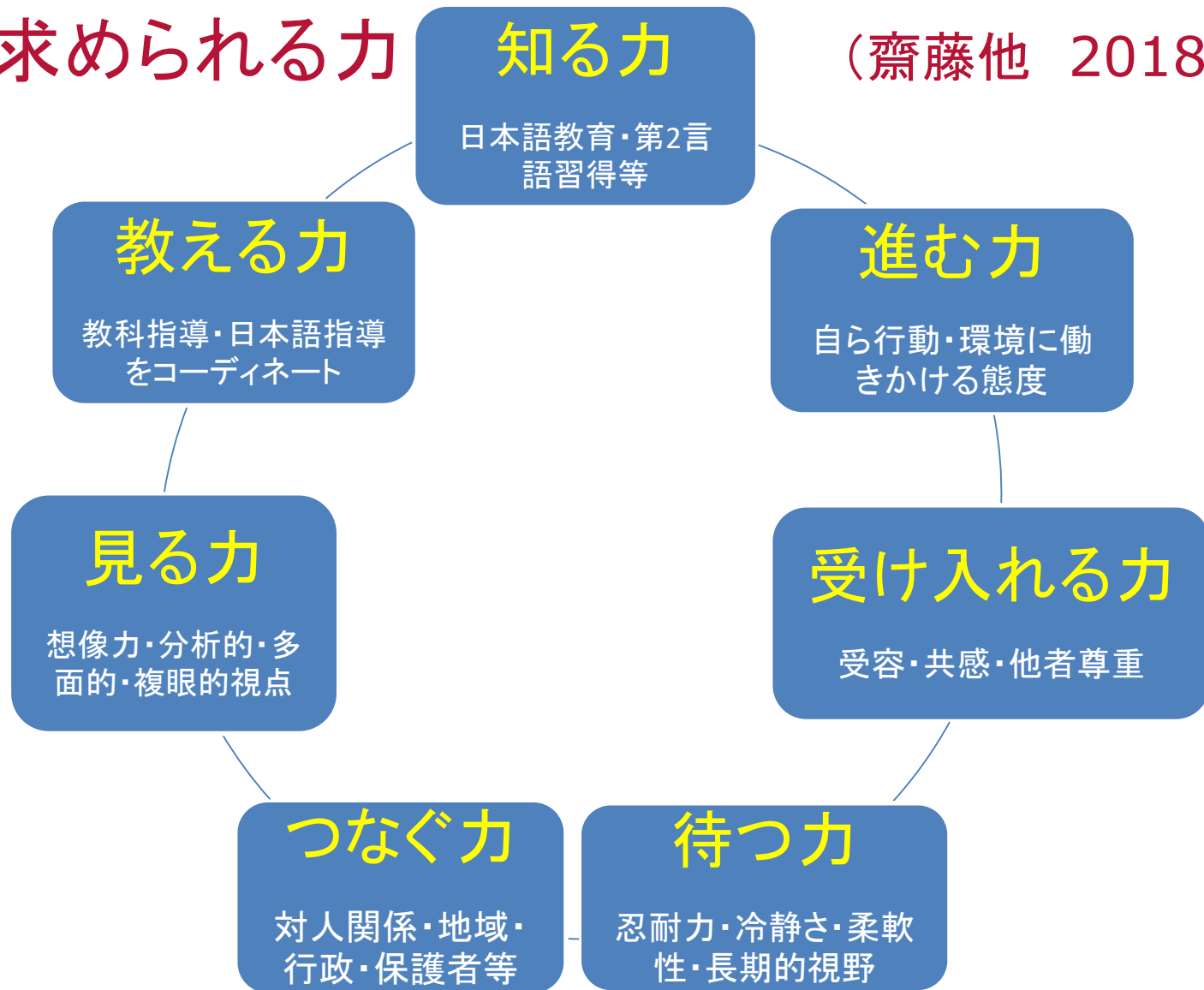
1.2 外国籍児童生徒の教育課題

- 学習言語能力の獲得
- 適切な進路指導
- ダブルリミテッドにならないための早期対応
- 母語を喪失による、家族とのコミュニケーションの質低下
- 自尊感情、自己肯定感が持ちにくい
- アイデンティティの揺れ



1.3 外国人児童生徒等教育を担う教員に 求められる力

(齋藤他 2018)



2. 上智大学短期大学部の外国籍市民支援

「内なる国際化」とともに発展

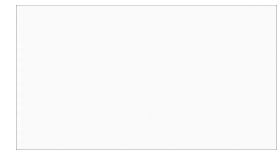
Men and women for others, with others 「他者のために、他者とともに」

1987～ 外国籍市民への日本語支援

- － 支援した家庭400超（通称：家庭教師ボランティア、2009年度まで）

2008～ 秦野市・上智大学短期大学部提携事業協定

- － 2009～ 小中学校での日本語支援ボランティア（通称カレッジフレンド）派遣
- － 2010～ 日本語教室（コミュニティフレンド）への移行
- － 2014～ 多文化共生教育研究協議会設立
 - － 外国籍児童生徒の教育や多文化化に関する研究での連携



2.1 神奈川県秦野市における多文化化

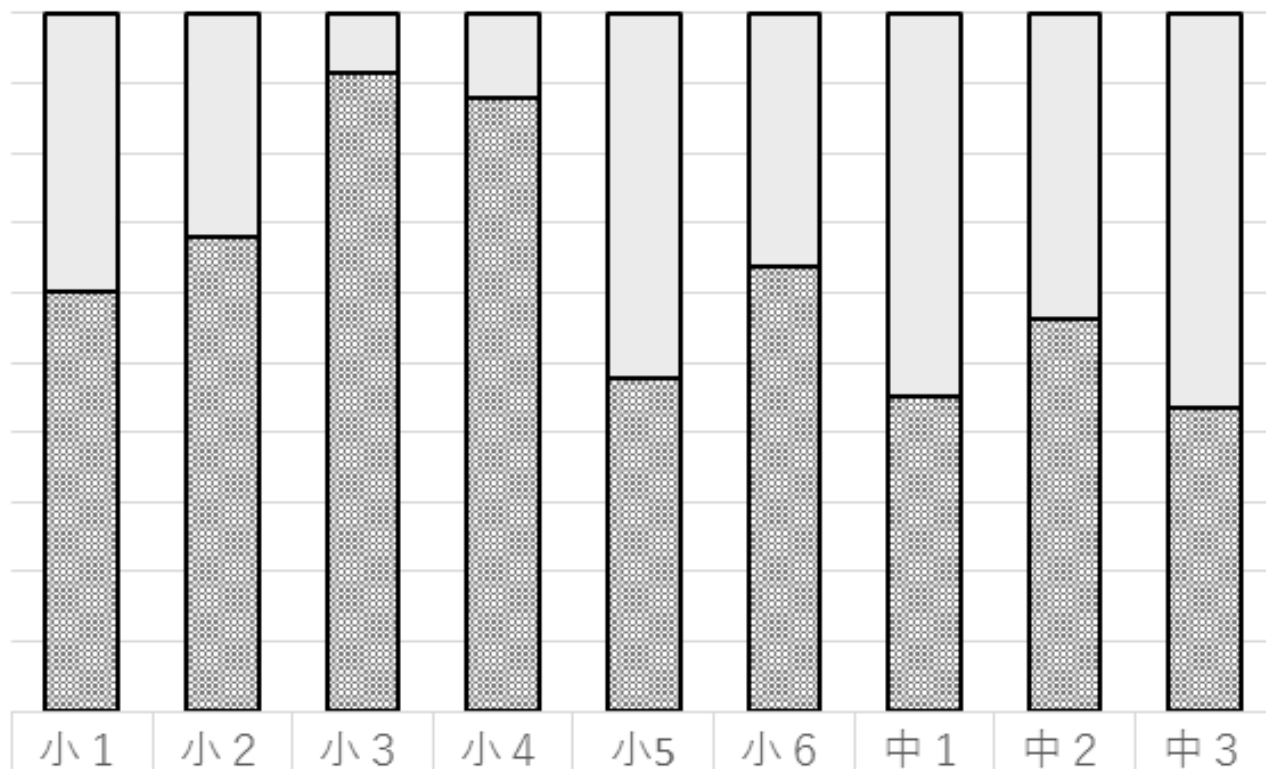
- 神奈川県西部、都心から約60キロ、人口17万弱
- 外国人登録者数 約3100人(人口の1.8%)
 - ・ 80年代 インドシナ難民の受け入れ、90年代 南米からの移住者が増加
- 外国人児童生徒の教育環境
 - ・ 人数:市内小中学校に280人前後(過去5年)、約90%(日本生まれ、または就学前渡日)
 - ・ 日本語指導が必要な児童生徒 約60%
 - ・ 国際教室:約半数の小学校に配置
 - ・ 「特別の教育課程」:全校実施
 - ・ 日本語支援に年数の上限を設けてない
 - ・ 日本語指導協力者(7カ国語, 10名弱)
 - ・ 大学生ボランティア(カレッジフレンド)

2.2 学年別「特別の教育課程」編成比率(2016年度)

日本語指導が必要な児童生徒の割合は、小学校3、4年生が最も高い

学習言語の習得には平均で5～7年が必要

約90%が、日本生まれ、就学前渡日だが、40%に長期間支援が必要



□ 課程編成なし

■ 課程編成

2.3 本学の外国籍市民への支援



サービスラーニング (学生の約半数が、在学中に経験)

コミュニティフレンド (日本語教室)

- ・本学が教室を運営
- ・対象: 外国籍市民幼児から成人学習者
- ・活動: 平日夜間、週3日、3拠点で開催
- ・内容: 日本語・教科学習支援
- ・参加者数: 学習者約20名/1拠点

ボランティア2~30名/1拠点

- ・条件: 履修科目との関連なし



カレッジフレンド (学校派遣)

- ・秦野市内の小中学校へ派遣
- ・支援要請: 学校→市教委→大学
- ・対象: 「特別の教育課程」対象の児童生徒
- ・活動: 月木いずれか午前中2時間
- ・参加者数: 25~40人/週、年間600日上限
- ・支援形態: 取り出し、または入り込み
- ・参加条件: 日本語教育概論・演習履修

2.4 サービスラーニングのしくみ

本学の教育の視点「キリスト教ヒューマニズム」「英語発信力」「国際性」

学外での学び

日本語・教科支援ボランティア

- カレッジフレンド(学校派遣)
- コミュニティフレンド(拠点学習)

英語教育ボランティア

- イングリッシュフレンド(学校派遣)
- キッズイングリッシュフレンド(地域での英語活動)



サービス
ラーニング

学内での学び

授業科目

- | | |
|----------------|-----------------|
| ● 日本語教育概論 | ● 社会言語学 |
| ● 日本語教育演習・日本語学 | ● 第二言語習得 |
| ● 児童英語教育概説 | ● ゼミナール |
| ● 児童英語教育演習A・B | ● インデペンデント・スタディ |
| ● 児童英語指導者養成講座 | |
| ● 文化人類学 | |

ライフデザインが
できる
人物の育成

コミュニケーション
能力の育成

社会人基礎力
の育成

サービスラーニング入門講座

サービスラーニング・ブラッシュアップ講座

個人相談・指導

2.5 コミュニティフレンド参加学生の2年間

1年次
4月

- サービスラーニング入門講座(2017年度 90分×10回(単位なし))受講
- ボランティアに関する本学の理念や活動に役立つ知識を講義、約150名(新入生の6割)が参加

6月

- 活動の希望調査後、コーディネーター等が面接、マッチング
- 6月中旬から活動開始、通常複数の学生で1人のこどもか大人を担当
- 授業とは関連がないため、多文化コーディネーター、チューターが支援方法などをアドバイス

7月

- ブラッシュアップ講座
- 2016年度「国際理解のためのワークショップ」2017年度「ディスレキシアってなあに」
- 半年間の活動の振り返りを提出

秋学期

- 秋学期開始後活動継続(前期と同じ学習者を支援)
- 授業の空き時間などに、SLセンターでチューターに支援方法を相談する
- 2年生引退、1年生を中心に活動。学習者との人間関係もできてくる。

1月

- ブラッシュアップ講座
- 半年間の振り返りを提出

2年次
卒業

- 原則、卒業まで継続
- 編入試験や就職活動中休んだ後、卒業まで継続する学生もあり

2.6 参加学生の教育

サービスラーニング入門講座(2017年度)

第1回 4月13日(木)	「サービ斯拉ーニング活動とは」		英語科 宮崎 幸江
第2回 4月20日(木)	「キリスト教ヒューマニズムとボランティア」		シスター 岩崎 明子
第3回 4月27日(木)	「多文化共生社会のための歴史教育」		英語科 森下 園
第4回 5月11日(木)	「My Volunteer Experiences」		Thomas Varkey神父
第5回 5月18日(木)	「特別な個性を持つ子どもたちへの支援」		カウンセラー 松本 玲子
第6回 5月25日(木)	「英語を教え、学ぶ場において“critical”「批判的」であること ～批判的応用言語学の視点から」		英語科 神谷 雅仁
第7回 6月1日(木)	1.「秦野市の学校教育におけるボランティアの役割」 秦野市教育委員会 教育指導課長 2.「活動希望調査およびコミフレ見学について」 課題の説明 多文化コーディネーター 鈴木 史子		
第8回 6月8日(木)	活動別ミーティング・面接 *サービ斯拉ーニング入門講座課題の提出		
第9回 第10回 6月15日(木) 6月22日(木)	キッズイングリッシュフレンド 実践講座:幼稚園活動へ向けて	コミュニティフレンド 実践講座:支援の方法と準備	

2.7 ブラッシュアップ講座（年2回）

	講義内容
2016年度 春	「国際理解ワークショップ」 木下理仁氏 かながわ開発教育センター(K-DEC)事務局長
2016年度 秋	「多文化化する地域 日本語を通じた地域住民とのコミュニケーション」 野山広氏 国立国語研究所
2015年度 春	「国際理解ワークショップ ビン君に何が起こったのか」 木下理仁氏 かながわ開発教育センター(K-DEC)事務局長
2015年度 秋	「これからの世界とあなたたち」 藤崎一郎氏 元駐米大使、上智大学国際関係研究所代表
2014年度 春	「多文化共生について学ぶ」 木下理仁氏 かながわ開発教育センター(K-DEC)事務局長
2014年度 秋	「特別の個性を持つこどもたち」 松本明子氏 上智大学短期大学部カウンセラー

3. 学生の学びーコミュニティフレンドの振り返りから

「知る」力 「教える」力 「見る」力 「つなぐ」力 「待つ」力
「受け入れる」力 「進む」力 は涵養されうるか？

● 半年後

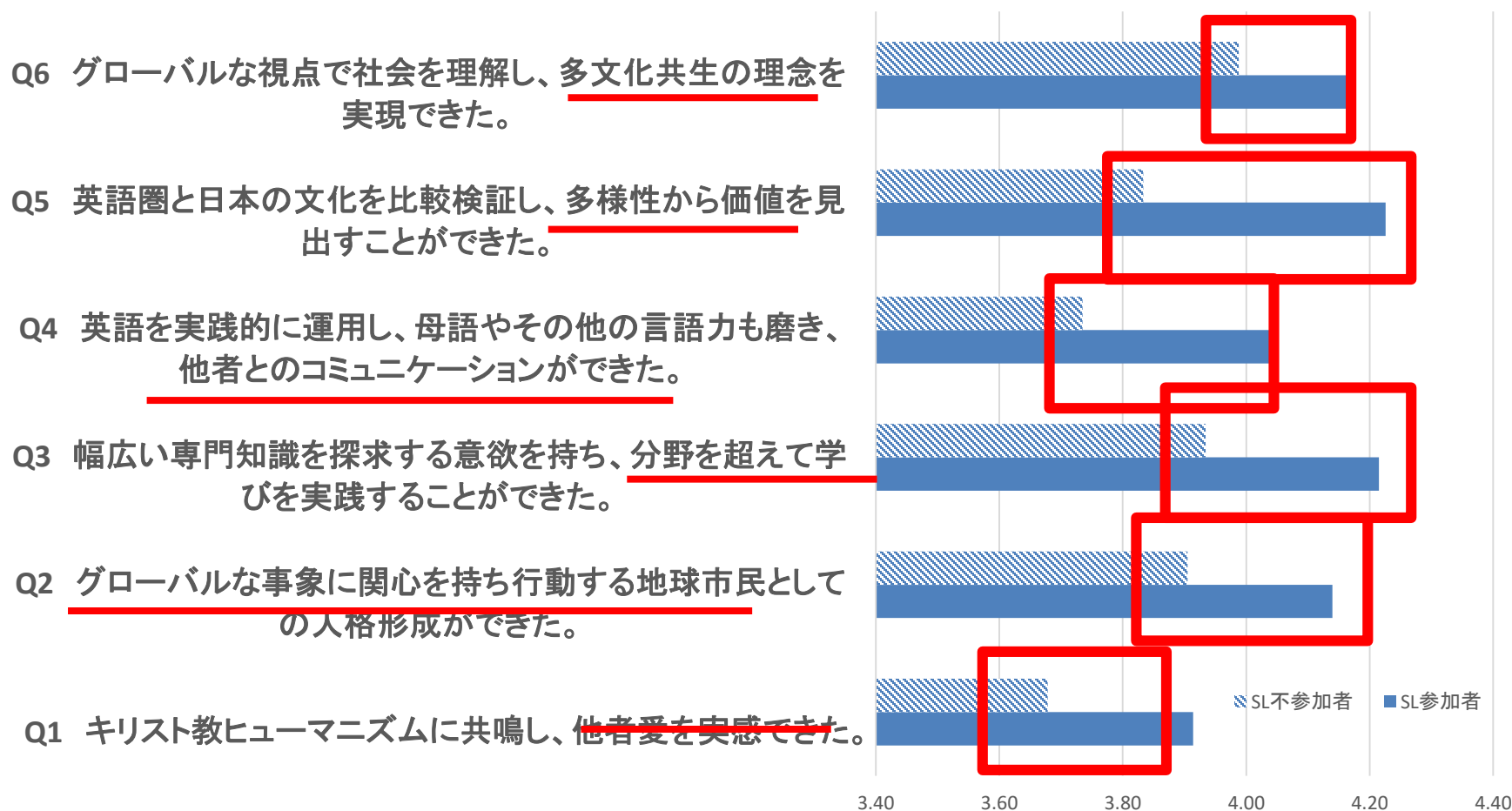
- － 私は約2か月間コミュニティフレンドとして子どもたちの学習を支援した。…初めて顔を合わせたとき、なかなか口をきいてくれなかった…徐々に心を開いてくれてうちとけるようになった。…私は子どもが好きで、また教師になりたいとおもったこともあり…人になにかを教えることは思った以上に難しく、相手の年齢によっては簡単な言葉遣いをしたり…こどもの目線に合わせて勉強を教えるのでわかりやすく教えるには時間がかかった。大変なことは多かったが嬉しさや楽しさはその倍以上だった。週に一度という少ない時間だがたくさんのものが得られた。…人に教えることで自分自身も成長できるのではないか。もっと勉強を好きになってもらうために教え方を工夫して子どもの学習向上に努めていきたい。

● 1年後

- － この一年間、コミュニティフレンドとして多くのことを学んできた。人とのかかわり方や勉強を教える難しさ、相手の気持ちを第一に考えることなどたくさんあげられる。…丁寧に一つずつわからない問題を一緒に考えていく。そのプロセスがとても重要だと感じた。…今まで苦手だった問題をすらすらと解けたときのうれしそうな笑顔を見ると本当にやりがいを感じられる。…私が担当した子はまだ小学生である。学習の基礎である小学校の勉強を今のうちに完璧にしてより良い形で次の学年のスタートを切ってほしい。そのお手伝いとして来年度も責任をもって務めていきたい。

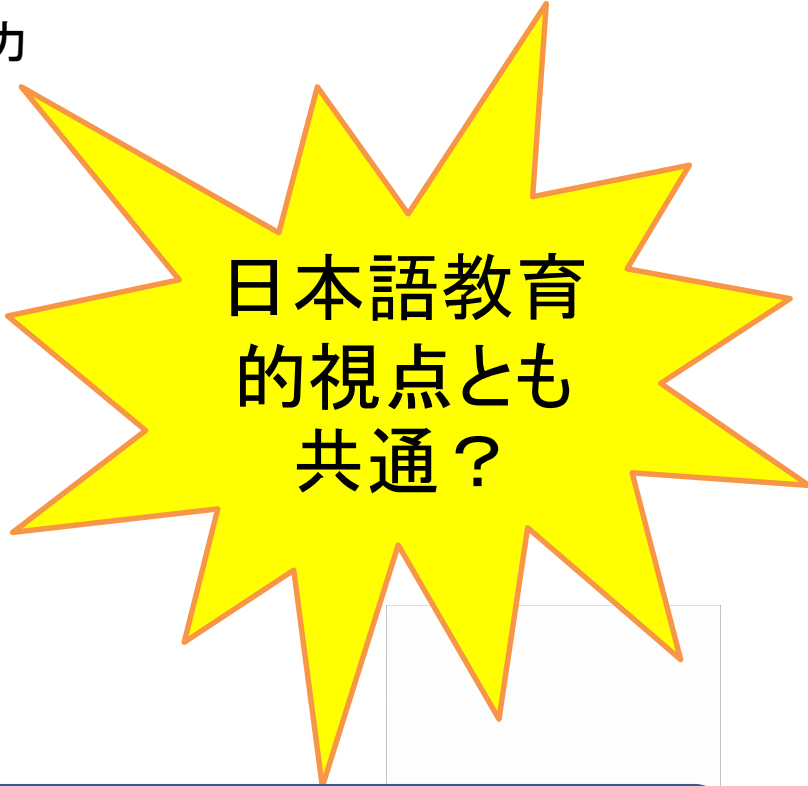
3.1 学生の学び – ディプロマポリシーとの関係

サービslラーニング参加学生(n=93)と不参加学生(n=86)の
ディプロマポリシーに対する自己評価の平均(2016年度卒業生)



4. 外国籍の人々との接触した学生達は・・・

- － 多文化的な視点
 - ・ 言語文化の多様性に対する理解力・共感力
 - ・ 異文化コミュニケーション力
 - ・ マイノリティの側からの視点・問題意識
- － 課題解決能力
 - ・ 地域の課題に目を向ける
 - ・ 自分にできることを行動に移す力
 - ・ 他者と協働する力



日本語教育的視点とも
共通？

多文化共生社会の実現を担う人材へと成長

参考文献

小島祥美(2015)「特別の教育課程導入と外国人児童生徒の教育」Migration Policy Review vol. 7, 54-70.

齊藤ひろみ・浜田麻里・金田智子・菅原雅枝・伊東祐郎(2018)「平成29年度文部科学省委託 外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業 報告書」日本語教育学会

佐藤群衛(2009)「転機にたつ外国人の子どもの教育—生活者、社会の構成員という視点から」齋藤ひろみ・佐藤郡衛(編)『文化間移動をする子どもたちの学び—教育コミュニティの創造に向けて』ひつじ書房, 3-18.

中島和子(2016)『完全改訂版バイリンガル教育の方法—12歳までに親と教師ができること』アルク

宮崎幸江(編)『日本に住む多文化の子どもと教育—ことばと文化のはざまで生きる』上智大学出版

文部科学省(2011)『外国人児童生徒受け入れの手引き』

文部科学省(2014a)「学校教育法施行規則の一部を改正する省令等の施行について(通知)」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1341903.htm